

最後の晩餐

知っておきたいキリスト教のことば (77)

「最後の晩餐」と聞くと、レオナルド・ダ・ヴィンチが書いた絵画を思い浮かべる方も多いでしょう。この絵がミラノの修道院にあることは知らなくても、映画「ダヴィンチ・コード」なら知っているという人もおられるかもしれません。

「最後の晩餐」とは、イエス様が十字架につけられる前の夜に、12人の弟子たちと共にした食事のことです。マタイ・マルコ・ルカ福音書は、この食事が過越祭というユダヤ教の祭りの日におこなわれたと報告します。



この食事の中でイエス様がなさったことは、初期の教会でも大切にされてきました。パウロはコリントの信徒への手紙の中で、このように書いています。

主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。(コリントの信徒への手紙ー 11：23～25)

パンと杯は、人類の罪の贖いのためにささげられたイエス様の体と血を思い起こさせます。そしてこのことは、「聖餐式」として今も教会で大事にされています。

わたしたちは聖餐式の中でパンを食べ、杯から飲むたびに、イエス様がわたしたちのために十字架につけられたことを思い起こすように促されています。そして同時に神の国の先取りとして、神の国の祝宴にも招かれているのです。その恵みに感謝しましょう。

次回は「祭司」です。お楽しみに。